

盛岡市動物公園再生事業計画について

平成31年2月13日

都市整備部

1 趣旨

今年度実施の「岩山南公園を活用した観光振興及び地域活性化のための基盤整備調査」業務委託により提案された盛岡市動物公園再生事業計画（案）について報告するものである。

また、同業務委託により受託者から助言を受け、市が策定した「岩山エリア公民連携基本計画（案）」について報告するものである。

2 経緯

(1) 平成26年度（2014年度）

ア 社会資本整備総合交付金を財源とする盛岡市動物公園再生基本計画策定に着手

イ 財務省からの指導により、国土交通省が有料動物園の獣舎等に対する国の支援は行わないことを公表

(2) 平成27年度（2015年度）

ア 国の支援を財源としない行政主導官民連携事業を摸索

イ 動物園を官民連携事業で行った例が国内外にないため、国土交通省の先導的官民連携支援事業を活用

ウ 民間活力導入可能性調査において「民間主導公民連携事業・PPPエージェント方式」が最適との調査結果

(3) 平成28年度（2016年度）

ア 民間主導公民連携導入可能性調査を実施

イ 調査結果は「市の一定額（現運営経費より削減）の負担があれば、民間投資誘導は可能」

(4) 平成29年度（2017年度）

ア 「民間主導公民連携事業・PPPエージェント方式」による再生計画策定についての庁内合意形成

イ 全員協議会への説明

動物公園公民連携事業による再生計画策定及び目指す将来像について説明

(5) 平成30年度（2018年度）

盛岡市動物公園再生事業計画（案）は、株式会社オガールに委託し、有識者による盛岡市動物公園再生事業検討会議（委員名簿は別紙による。）を組織して検討するとともに、市と受託者で協議して策定した。

3 動物公園再生事業計画（案）（別紙 資料1 「岩山南公園を活用した観光振興及び地域活性化のための基盤整備調査」【抜粋】を参照）

平成30年3月31日付けで株式会社オガールと委託契約した、「岩山南公園を活用した観光振興及び地域活性化のための基盤整備調査」業務において、盛岡市動物公園再生事業検討会議を組織しながら、再生の目的、コンセプト、動物公園としてのあり方、ゾーニング及びデザイン、施設修繕等計画、運営体制等について検討し、動物公園再生事業計画（案）を策定した。

4 提出された再生事業計画（案）に対する市としての検証

(1) これまでの運営の総括

これまで市と公社が管理運営を行ってきたが、平成元年の開園当時の成長時代から縮退時代に変化し、市の行財政状況が厳しくなってきたこと、開園以降の30年間に来園者のニーズが変化したこと等、社会経済情勢の変化に対応することが出来なかった。

また、市が十分な予算措置が出来なかったこと、公社が行財政に依存した運営を行ってきたこと、指導する立場の市と公社にビジネスのノウハウがなかったため、来園者増加等の取り組みが十分に行えず、動物公園の収益を向上させることができなかった。市も公社も、動物公園を運営する認識が低く、経営のための人材を育成してこなかった。

以上のことから、動物公園を再生させるためには、公民連携のもと来園者の増加と自立的な運営を実現しなければならないことから、新たな経営者のもとでリスタートすることが新たな動物公園には必要と判断した。

(2) 公社への対応

ア 公社職員の育成と人材発掘

受託者において、公社職員の意識改革及び人材発掘のため、ワークショップや勉強会を行った。縮退時代において、市民の貴重な財産を預かる新たな活用会社に求められる動物公園とはどうあるべきかを議論し、現状運営の反省点を整理した。参加者個々で検討を重ね、高い公共心を持ちつつ民間経営ノウハウを取り込み、動物公園の魅力を最大化し、行財政負担削減のために事業プランを取りまとめ、事業提案を行った。

ワークショップ（3回）を開催した結果、公民連携事業に対する習熟度は高まり、事業収益性を意識した運営を行わなければならないことを意識した発言もあり、公社職員の意識改革が進み、前向きな姿勢で新たな運営会社への再就職を希望する職員が増えた。



<2018.7.21 第1回WS>

<2018.9.12 第2回WS>

<2018.11.7 第3回WS>

イ 今後の対応について

これまで、再雇用等にかかる公社職員の意向を面談により確認してきたが、今後も面談等により職員の意向を把握しながら、新たな会社への再雇用と再雇用を希望しない職員の再就職への支援に努めていく。

ウ 指定管理契約

2018年度末で指定管理契約が終了するため、指定管理契約を1年間延長する必要がある。

(3) 新たな動物公園の運営会社の設立

指定管理による動物公園の管理運営のほか、民間投資誘導を図り再生事業計画の実現に向けた調整を、市の意向を踏まえながら代理人として行っていくため、新たな動物公園の運営会社として、（仮称）盛岡市都市公園活用会社を設立する。

(4) 再生事業計画(案)の検証結果

動物公園再生事業で掲げるコンセプト「人と動物と自然が、共生する動物公園 ～人と動物が参加する、新しい福祉の形～」を民間と連携する公民連携事業により実現することによって、動物公園の新たな社会教育施設としての役割が創出でき、市民に対して新たな公共サービスの提供が可能となる。また、動物公園再生事業の実施により、民間経営ノウハウを取り込むことができ、自立した運営が可能となることで持続可能な施設となり、現状運営で対応できなかった施設修繕や施設整備を行っても市の財政負担軽減となることから、財政的なメリットも大きいと判断した。

よって、動物公園を存続させるために、提案された再生事業計画(案)に基づき、新しく活用会社を設立し公民連携事業による動物公園再生事業を実施する。

なお、運営体制や資金計画、展示方法等に係る具体的な内容については、引き続き調整していくものである。

5 (仮称)動物愛護センター及び岩手県鳥獣保護センター

岩手県から、(仮称)動物愛護センター共同設置の検討を求められ、公民連携事業による設置について検討した。

(1) 動物公園再生事業計画(案)

調査報告書において、(仮称)動物愛護センター及び岩手県鳥獣保護センターに関わる記述は次のとおりである。

ア 動物公園のめざす姿

人と動物、都市と自然が共生する環境公園

イ 動物公園の使命①

野生動物の保護管理や自然環境の保全について考える機会の提供

ウ 動物公園の使命②

大学や研究機関と連携した、飼育動物や伴侶動物、野生動物など様々な動物の診療、検査、研究及び調査による生物多様性の保全

(2) 検討結果について

ア 本業務の調査報告書の内容を勘案すると、動物公園内に動物愛護センター及び岩手県鳥獣保護センターを設置することは、新たな動物公園で掲げる将来像に合致するため、動物公園内に設置することは可能である。

イ 動物公園内に動物愛護センター及び岩手県鳥獣保護センターの設置を希望するためには、県の動物愛護センター及び岩手県鳥獣保護センターを所管する部署と事業条件(事業実施の政策判断等)を調えたうえで、新たな運営組織との協議が必要となる。

6 岩山エリア公民連携基本計画(案)(別紙資料2「岩山エリア公民連携基本計画(案)」を参照)

本計画作成にあたっては、受託者である株式会社オガールからの助言を受け、市が策定した。

岩山エリアの再整備や資産活用のためには、利用者ニーズを把握し、経営観念も必要であることから、民間業者との連携により経営ノウハウを取り入れて事業を進める必要がある。

盛岡市動物公園をリードプロジェクトとして再生することにより、集客力を高め、岩山エリアのネガティブイメージに一石を投じ、民間投資誘導を図れる事業が展開できた時点で、セカンドプロジェクトを選考し、次から次へと民間投資を誘発できるエリアへと変え、公民連携による経済合理性に基づく事業の構築を検討し、事業展開していく。

7 今後のスケジュール

予定	会議名	備考
平成31年2月	全員協議会（報告）	動物公園再生事業計画（案）及び岩山エリア公民連携事業基本計画（案）について
平成31年3月	3月定例会市議会	指定管理契約延長（2018年度末→2019年度末）・予算措置
平成31年3月	パブリックコメント	動物公園再生事業計画（案）について
平成31年7月	活用会社設立	
平成31年7月	協定の締結	
平成31年11月	特別目的会社設立	
平成31年12月	休園	
平成32年4月	工事着手	
平成33年4月	開園	

予定

盛岡市動物公園再生事業検討会議

【有識者委員】

氏名	所属・役職	役割等
清水 義次	株式会社アフタヌーンソサエティ 代表取締役	【公民連携事業分野】 内閣官房地域活性化伝道師，2015日本建築学会教育賞 岡崎市・福山市ほかPPPアドバイザー
大島 芳彦	株式会社ブルースタジオ 専務取締役	【建築分野】 2015日本建築学会教育賞，2016年グッドデザイン賞 受賞，プロフェッショナル出演（NHK）
青木 純	株式会社まめくらし 代表取締役	【都市公園分野】 2014先進的なリフォーム事業者表彰受賞 南池袋公園で民間主導の公民連携事業実施
福井 大祐	国立大学法人岩手大学農学部 共同獣医学科准教授	【獣医師分野】 博士（獣医学），本旭川市旭山動物園獣医師，日本野生動物医学会認定専門医，アジア保全医学会認定専門医，日本獣医師会獣医学術奨励賞「学術賞」等受賞
向井 猛	札幌市保健福祉局衛生研究所 獣医師	【行政・動物愛護飼育分野】 元札幌市環境局環境都市部環境管理担当課長 元札幌市動物管理センター所長
岡崎 正信	株式会社オガール 代表取締役	内閣官房地域活性化伝道師 2013土地活用モデル国土交通大臣賞 紫波町公民連携代理人

【アドバイザー】

氏名	所属・役職	役割等
村田 浩一	日本大学生物資源科学部特任教授 （獣医学博士） よこはま動物園ズーラシア園長 （兼任）	【動物園学分野】 日本動物園水族館協会技術表彰，（第一回）日本野生動物医学会学会賞，OIE（世界獣疫機構）野生動物衛生WG委員，IUCN（世界自然保護連合）野生復帰専門家G委員，前日本野生動物医学会会長

「岩山南公園を活用した観光振興及び地域活性化のための基盤整備調査」(抜粋)

1 動物公園再生の目的

(1) 動物公園の自立した運営の実現

動物公園の経営は収益の約86%を市からの収入が占めており、市財政への依存度は高い状況にある。今後とも一定の市財政負担は必要となるが、新たな運営組織の下、様々な収益コンテンツを導入し、民間が稼ぐことで過度に公的な支援に依存することのない健全な動物公園の運営を目指す。

(2) 市の行財政負担の軽減

動物公園の運営に対し市が拠出している財政負担額は、開園当初から増加を続け、2017年時点で約2億6,000万円となっている。今後、人口減少に伴い、広域圏の人口自体の減少が見込まれる中、2040年以降は市の財政負担額が約3億2,000万円まで増加する見通しとなっている。人口減少に伴う市税収入の減少が予測される中、現状よりも市の財政負担を軽減し、健全な自治体経営に寄与することが求められる。

(3) 新たな社会教育施設としての役割をつくる

開園時から動物公園は、生命の尊さや自然環境の保全、生き物を愛する心を育む社会教育の場としての役割を掲げてきた。これは開園時から続く動物公園の重要な役割であり、今後も継続される普遍的な役割である。動物との触れ合いや野生動物の置かれている環境を学ぶことを通じて、時代や環境の変化の中で人間が自然環境の中でどのように行動すべきかを考える機会を提供する。また、行動変容につなげてこそ教育の意義があるという考えに基づき、単に知識を得るだけではなく、実際に活動に参加する教育プログラムや活動を継続する支援プログラムを構築していく。

2 コンセプト(案)

『人と動物と自然が、共生する動物公園 ～人と動物が参加する、新しい福祉の形～』

動物公園がある岩山エリアは、人間の世界である盛岡市街地と動物の世界である北上山地との境界に位置している。人と動物たちが、中間領域・境界にあればこそ、互いを対等にいたわり合うことが出来る場となることを目指し、非日常的な動物園ではなく、より日常的な動物公園として再生する。

3 動物公園としてのあり方

(1) めざす姿『人と動物、都市と自然が共生する環境公園』

動物公園は、人と動物の関わりを通じて多様で複雑な生きものの関係性「生物多様性」の尊さを伝えるため、岩山の立地や自然環境を活用し、都市と自然が共生できる持続可能な環境モデルとしての総合公園「環境公園」をめざす。生命や自然の不思議さを探求する知的好奇心と地球環境を守るための倫理を育み、共感を得ることができる市民文化を創造する。

(2) 使命

ア 豊かな地球環境を後世に残していくため環境教育を推進する

人と動物の関わり方、人と自然環境の関わり方を体験から学び、野生動物の保護や自然環境の保全について考える機会を提供する。

イ 高い水準の飼育技術を維持するため研究活動を推進する

高水準の飼育技術の実現のため、大学や研究機関、動物施設と連携し、動物福祉(アニマルウェルフェア)の向上と生物多様性保全への寄与を目指して、様々な動物の調査研究を総合的に行う。

ウ 常に先駆的な動物園であることをめざし挑戦できる人材を育成する

新しい取組に挑戦し地域貢献を継続していくため、未来の動物園への夢を持つ動物園人、人材交流や共同研究などを通じて新しい動物園モデルを発信できる人材を育成する。

(3) 展示方針『展示ストーリーとメッセージ』

動物の飼育展示環境では、動物への配慮と人間（来園者や飼育技術者）への配慮が両立されるべきであり、これが展示ストーリーの基本となる。

ア 動物への配慮として、それぞれの動物の生態や行動における適正な状態が実現されるように、動物福祉（アニマルウェルフェア）を考えた施設とする。

イ 人間への配慮として、ストーリー性のあるゾーニング、メッセージ性のある展示デザインとサインにより、知的欲求が満たされ、楽しさを感じられる施設とする。

(4) 飼育方針『課題と選択の機会の提供』

動物種毎に適した刺激を与え、動物の生活環境を絶えず変化させること（環境エンリッチメント）により、その種が本来持っている多様な行動パターンを発現する機会を提供し、動物が選択することにより動物本来の行動を引き出し、飼育動物のクオリティ・オブ・ライフを高め維持する。

(5) 繁殖・収集方針『盛岡ならではの特色と持続可能性』

動物の繁殖・収集は、計画的でかつ独自性を持って行う必要がある。そのためには、展示方針や飼育方針、将来の飼育頭数維持の可能性などを考慮し、高水準のアニマルウェルフェアを保証しながら検討するべきである。

盛岡市動物公園のシンボリックな動物はニホンイヌワシであり、生物多様性保全の観点からも、ニホンイヌワシのような動物の保護と繁殖、そのための環境教育を進める必要がある。

また、海外産動物など、今後入手困難な動物種の飼育継続は長期的な視点から検討する。

4 動物公園利用者が体験するストーリー

動物公園の利用者がストーリー感を体験する整備をするため4つのゾーンに分け、それぞれに特徴を持たせ、入口から終着点まで楽しさやワクワクが途切れることのない、歩いて楽しい動物公園を目指す。

そのためには、動物の飼育と展示では、人にとっても動物にとっても幸せな場所となるように施設を整備し事業展開する。また、オリジナリティーある動物公園となるように、岩山の自然環境を十分に活用した施設や園路の配置をする。

(1) プロローグ・エピローグ

エントランスの盛り上がりの創出とインフォメーションの整理により、興奮や期待感を高める。

(2) 第1場「里山に生きる」

盛岡らしい里山の雑木林のような動物展示と植栽の整備により、里山に入り込むような感覚を体験し、林道の途中には、地形を活かして見渡すことができるビューポイントを設ける。

(3) 第2場「高原の営み」

高原の牧草地をイメージした整備とし、子ども動物園にいる家畜などの動物と人の営みや、芝生空間の開放感を感じさせるデザインとし、人にも動物にも居心地の良い空間とする。

(4) 第3場「母なる大地」

物語のクライマックスとして、非日常的で開放感のあるアフリカのサバンナを眺められる広場を演出し、興奮や感動を共有する時間と場所を提供する。

第二場
「高原の営み」

高原に生きる動物と人の営みと
野生動物の開放感を感じさせる



第三場
「母なる大地」

物語のクライマックスとして、

3 落ち着いてサバンナを眺められる広場を整備



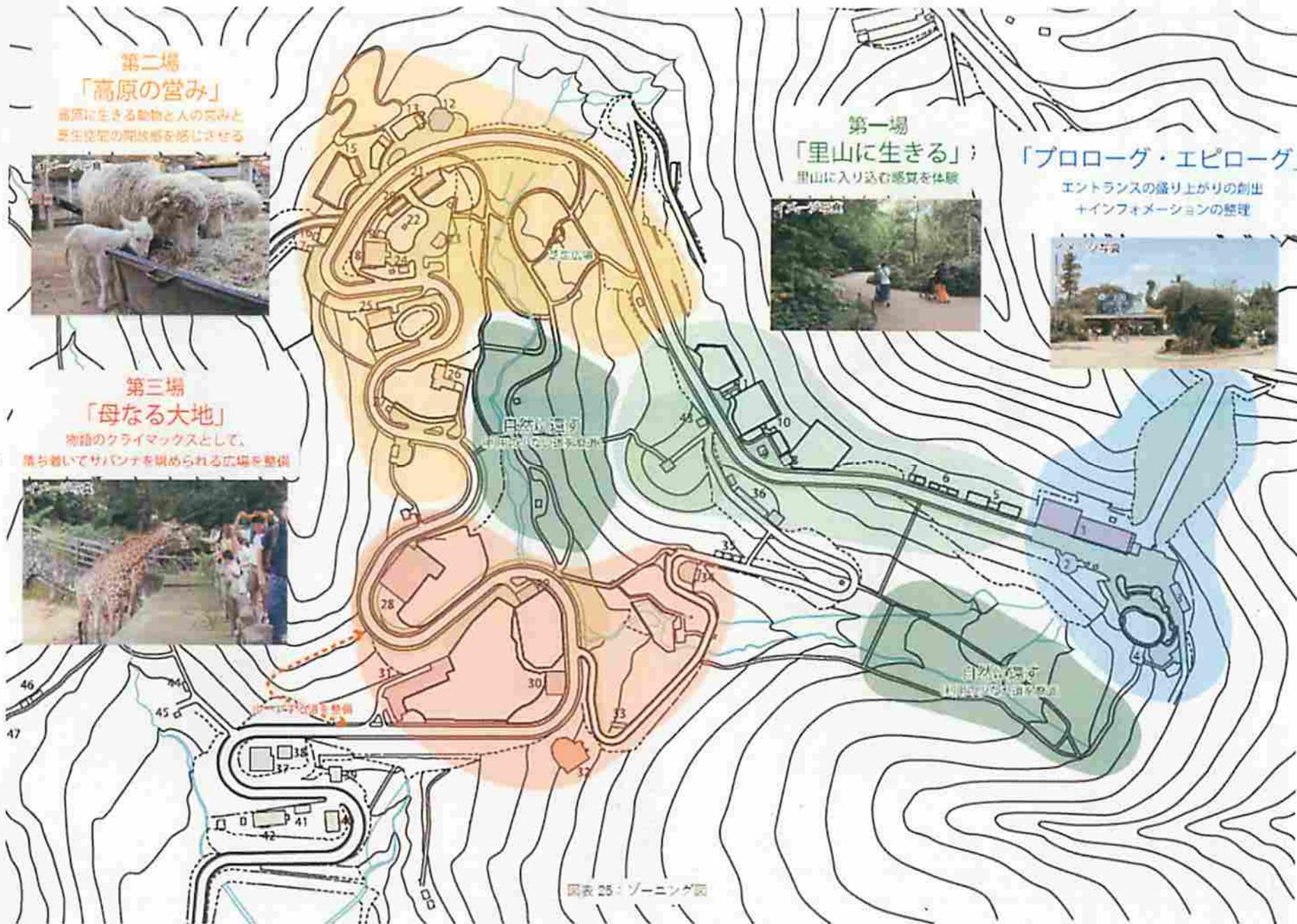
第一場
「里山に生きる」;

里山に入り込む感覚を体験



「プロローグ・エピローグ」

エントランスの盛り上がりの創出
+ インフォメーションの整理



図表 25: ゾーニング図

プロローグ・エピローグ エントランスの盛り上がりの創出+インフォメーションの整理

動物公園のエントランスは物語に例えるならプロローグの部分であり、これから踏み入れる動物の世界に胸を躍らせ、興奮や期待感を高める場所である。入口の切れ込みの傾斜を利用した動物の展示等により、動物公園に到着した際のワクワク感を演出する。エントランス部分では、入り口動線の視線を受け止めるアイキャッチのデザインと公園内全体の情報を手に入れることができるサインをデザインすることで、情報が視覚的にすぐに整理できるインフォメーション空間として整備する。また、物語の始まりであり終わりでもある広場空間として、人の滞留できる空間として整備する。



第1場「里山に生きる」

プロローグのエリアを抜けた先に広がる第1場は里山の自然を感じることで出来る空間である。盛岡の日常的な里山の雑木林を抜ける脇には、里山と一体的にデザインされ、里山に入り込んだような展示や植栽が計画的に整備されている。林道の途中で、地形を活かし動物公園全体を見渡すことが出来るビューポイントに到着する。全体が見渡すことが出来るよう、植栽を間引き、動物公園が本来持つ眺望の良さを最大限生かす工夫が必要になる。その際、アカマツを中心に間引くことで、より雑木林に近い状態へと遷移させる。



第2場「高原の営み」

第2場からは異国の雰囲気のある高原の牧草地をイメージした空間づくりを行う。植栽を丁寧に適切に間引くことで、芝生広場とこども動物園のエリアに一体的な開放感を形成する。園路の先に広がる高原の植物や家畜たちの生き生きとした姿を見ながら、さらに楽しさや期待感を高める場所である。木陰や沢などを活用し、動物たちにとっても居心地の良い場所を選択できるよう、微気候の変化のあるランドスケープとする。



第3場「母なる大地」

終着点である第3場は、非日常的で開放的なサバンナの草原を擬似植生などにより演出する。現在唐突に終わる印象を与える終着点付近に周回路を整備し、唐突な印象を和らげる。現在のライオン舎の西側の場所に、谷地形を活かし、サバンナを見下ろせる広場空間を整備することで、ここまでに感じた興奮や感動を共有するなど余韻にひたる時間や場所を提供する。さらに、ニホンイヌワシ舎との間の植栽も間引くことで、ニホンイヌワシ舎を見られるようにし、その周囲にも、サバンナを見下ろせる広場空間を整備する。



5 施設修繕及び施設整備等

(1) 施設修繕及び展示の改善（約7億円）

老朽化した施設の修繕とともに、動物の姿を魅力的かつ効果的に見せるための展示方法の改善

ア 老朽化の著しい獣舎を中心とした修繕（鉄部分の補修、展示場の土留め、雨漏り補修等）

イ 観覧者の近くで迫力ある動物の姿を見ることができる「ガラス展示の導入」、雑木林に馴染むような展示施設の改修による「里山の自然との一体感の演出」等（展示の改善）

ウ 「広々としたデッキの設置」により、ゆったりと動物を観覧できるスポット等（休憩場所の増設）

エ 全園的に統一感のある魅力的かつ効果的な「サインリニューアル」

オ 「レストハウスの改修」による新たな休憩場所と飲食等収益の増加

(2) 施設整備等（約6億円：公募設置管理制度を利用し、交付金の活用を予定）

岩山の自然等を活かした公園としての魅力アップのための園内の既存施設や自然環境の整備

ア 修景施設の改修（長期間未整備状態の植栽、樹木の伐採、剪定等）による、里山としての「岩山の自然の魅力アップ」、地形を活かした「ビューポイント」の設置、自然散策なども楽しめる公園としての機能の拡張

イ 入園ゲート近くにある「セミナーハウスの改修」により、入園した来園者のワクワク感の創出、各種インフォメーションと休憩場所としてのセンター機能の強化

ウ 園路の整備等により、広い園内を楽しみながら歩くことができる公園

(3) 現状写真



<天井雨漏れ>



<サイン改修>



<展示修繕・土留め改修>



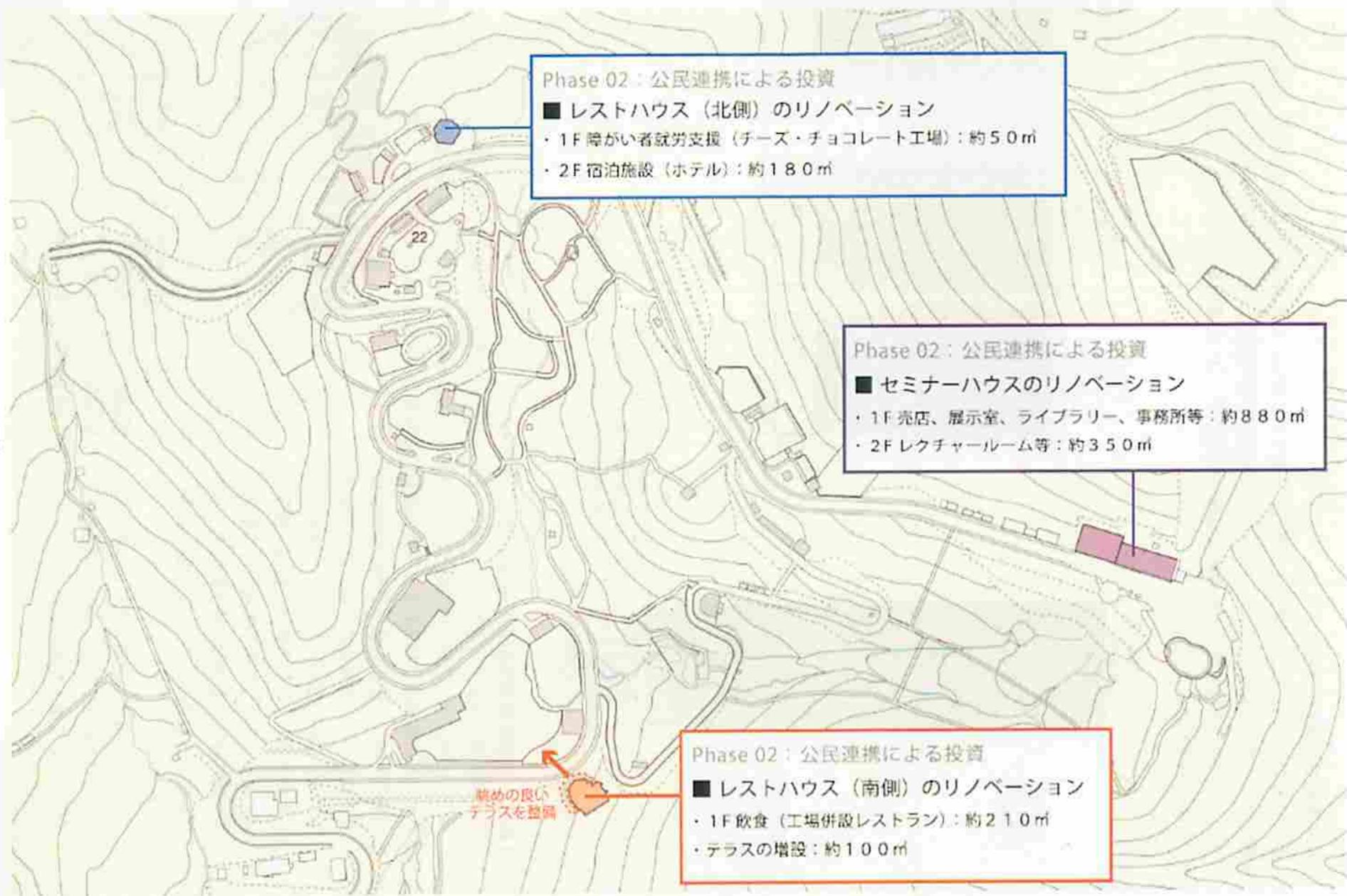
<イヌワシ舎他：鉄部補修>

6 事業スケジュール

- (1) 第1フェーズ 公共による投資で、施設修繕を行い、エリア価値の上昇局面を作る
- (2) 第2フェーズ 官民で連携して投資を行い、エリア価値を上昇させることで、民間投資の環境を作る
- (3) 第3フェーズ 連鎖的に更なる民間投資誘導が喚起されるような好循環をつくり出す



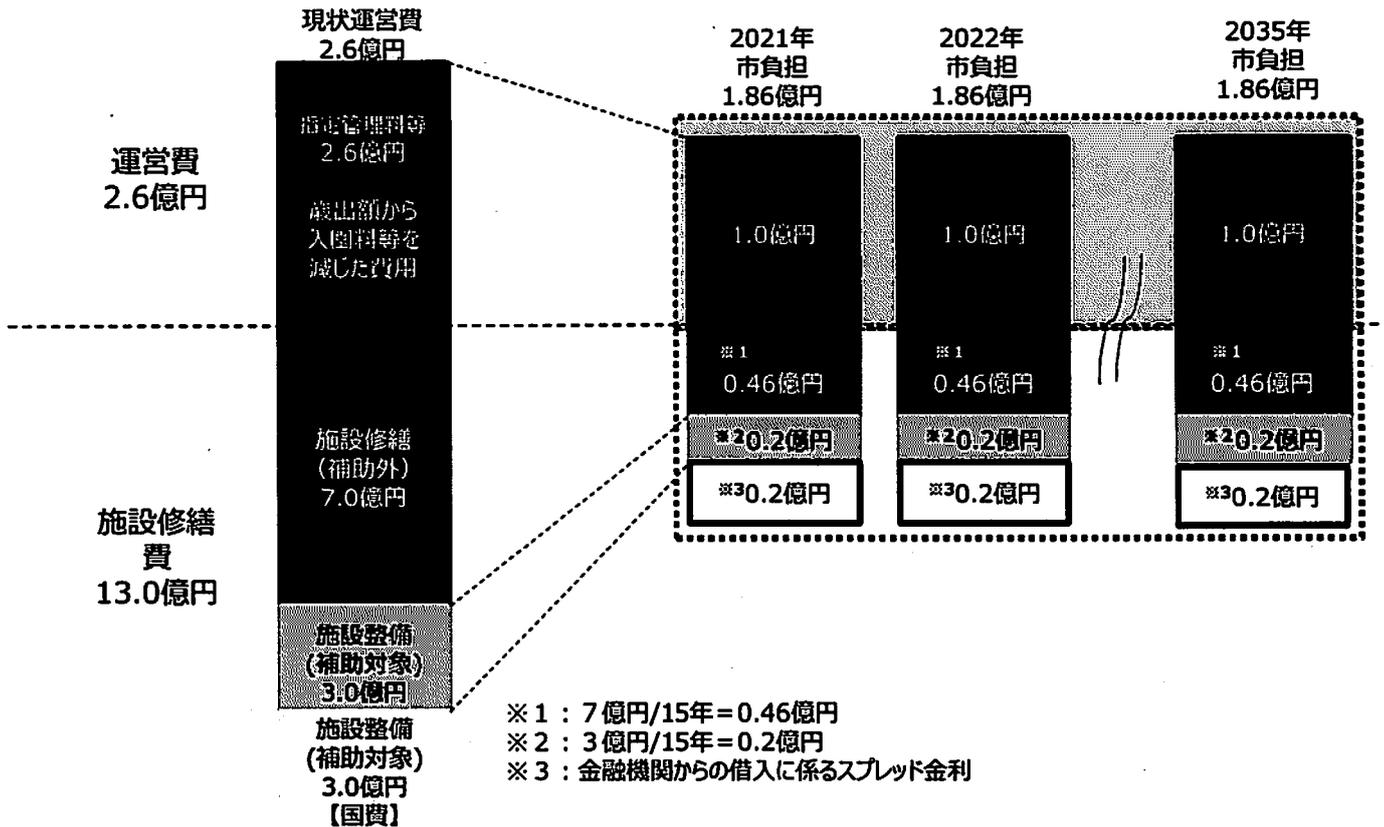
※第2・第3フェーズの事業については、第1フェーズのリニューアル効果や社会経済情勢等を勘案した上で、民間事業者が市と協議して実施する。



7 市の財政負担推移イメージ

現在の市の財政負担額2.6億円を1.0億円に圧縮する。市は、光熱水費、施設維持管理費、動物購入費及び飼料費等として指定管理料を支払い、その他の経費は新たな運営会社が入園料や物販等の収益で補う。

また、現在は予算措置が不十分な施設修繕・更新費として0.86億円を計上しても、現状運営に比べ0.74億円の市財政負担削減効果がある。



【参考】公募設置管理制度(Park-PFI)

公募設置管理制度（以下「P-PFI」という）は、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度であり、都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便性の向上を図る新たな整備・管理手法である。また、民間事業者が行う園路、広場等の特定公園施設の整備費用のうち市が負担する金額の1/2に交付金の支援が受けられる。

2017年の都市公園法改正により新たに設けられた制度であり、全国各地の都市公園において導入が進んでいる。



(出典)「都市公園の質の向上に向けたPark-PFI活用ガイドライン」p3より。

8 運営体制

(1) 新たな動物公園の運営会社

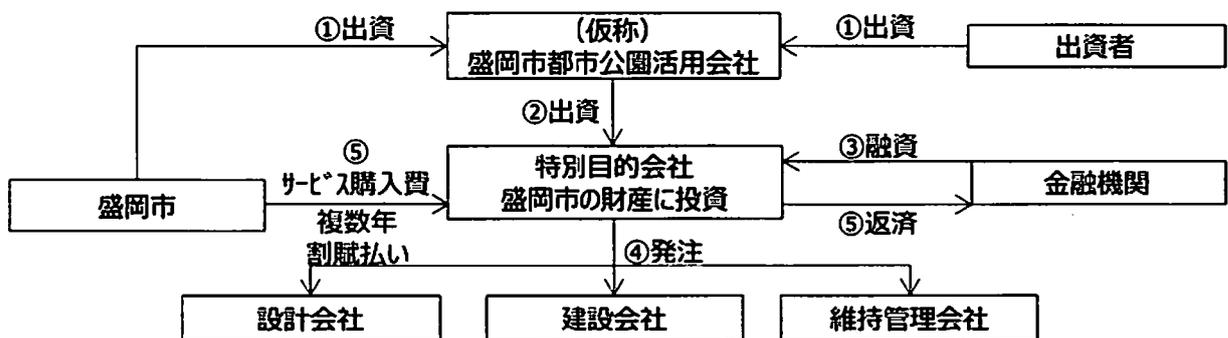
動物公園の運営を担うとともに、岩山エリアの事業開発をはじめ複数の都市公園の活用を目的とした（仮称）盛岡市都市公園活用会社（以下「活用会社」という。）を新設し、運営を担わせることが望ましい。

また、動物公園という市民の財産を活用して事業を実施することから、事業には一定の公共性が求められる。公共性の確保と市の政策的な意向を反映するためにも活用会社に対しては市から出資が必要である。

(2) 活用会社と特別目的会社の業務と役割

活用会社は、動物公園の管理運営として、動物飼育展示事業、教育普及事業、収益事業、広報等を行い、収益性のある都市公園の利活用を支援し、市の財政負担の低減と公園及びその周辺エリアの価値を上げる役割を担う。

特別目的会社は、金融機関から資金を調達し、設計及び建設会社に発注し行う。



【想定される獣舎改修ストラクチャー】

(3) 経営方針

来園者に最高のサービスを提供し、「また訪れたい」という思いを持ってもらい、リピーターとなってもらうためには、動物公園で働くスタッフの能力が最大限発揮される組織づくりが求められる。そのためには、スタッフ一人ひとりの多様性、創造性を生かし組織の目標達成を実現できるマネージャーの存在と一定の裁量権の下、スタッフ個人がやりがいを持って働くことができる環境が必要である。

(4) 活用会社の設立時期

ア 施設老朽化の状況を勘案すると2020年度に公社から活用会社に運営を移行

イ 今年度末までとなっている公社との指定管理契約を1年延長

ウ 来年度（2019年度）に活用会社を組成し、継続雇用を希望する公社職員に対して新たな経営者から雇用条件を提示する必要がある

(5) 活用会社の概要（想定）

ア 資本金1千万円

イ 事業資金調達として、市中銀行のほかにMINTO機構からの資金調達を想定

ウ MINTO機構から資金調達する条件として、資本金の公的資金比率を50%未満とする必要がある

エ 市の出資比率は49パーセント 490万円

岩山エリア公民連携基本計画（案）

平成31年2月

盛岡市 都市整備部

「すぐそこにある、未来の岩山エリアへ。」

ある晴れた日。

朝露の中、野鳥たちのさえずりが聞こえる。

散策路を歩けば、美しい草花。

「おはようございます」とすれちがう人もいれば、
トレランの練習だろうか、走ることに集中する人もいる。

市街地からわずか15分、出勤前にひと汗かくにはもってこいのコースだ。

頂上の展望台からは雄大な岩手山が一望できる。

昼食は展望レストランのビュッフェで。焼きたてのパンと熱いコーヒーを楽しむ。

もちろん、夜には街の明かりを見下ろすロマンチックなデートスポットにもなることは周知の上だ。

動物公園からは子どもたちの歓声が聞こえる。動物たちの食事風景に興味深げに眺めたり、

ツリーハウスで遊んだり、虫取りをしたり、芝生で工作をしたり、楽しみ方はいろいろ。

ハンガローで語り明かすのだろうか、バーベキューの準備をする大人たちもなごやかに笑い合う。

* 日常と地続きの、とある時間。

非日常の、特別な時間。

そのどちらもが、この岩山の空の下にある。



かつて、市民のレジャースポットとして大規模娯楽施設が林立した岩山エリアは
いま、静かにその姿をシフトチェンジしようとしています。
日常的に、明るく、愛されるエリアになるために、
これからの岩山エリアのあるべき姿を共に見つめていきましょう。

目次

1	はじめに	2~7
2	基本計画（開発理念等）	8
3	リードプロジェクト	9~11
4	その他の公共事業プロジェクト	12~13

1 はじめに

(1) 民間主導が求められるエリア開発 ～なぜ今、岩山エリアは民間主導公民連携事業なのか？～

ア 岩山の現状

岩山エリアは、盛岡市中心市街地や盛岡駅の東にある山頂標高343mの岩山を中心としたエリアを指し、盛岡市中心市街地から車で約7分、盛岡駅から車で約15分という位置にあります。

岩山エリアには、盛岡市（以下「市」という。）が所有する岩山公園及び盛岡市動物公園（以下「動物公園」という。）、岩手県競馬組合が所有する盛岡競馬場（OROパーク）、民間企業が経営する岩山パークランドや盛岡カントリークラブ（積雪寒冷期には岩山パークスキー場）で構成される多数のレジャー施設が集積するエリアです。また、岩山公園にある展望台からの夜景は「日本夜景遺産」や「日本夜景100選」に選定され、市民だけでなく県民に親しまれる夜景スポットとなっています。

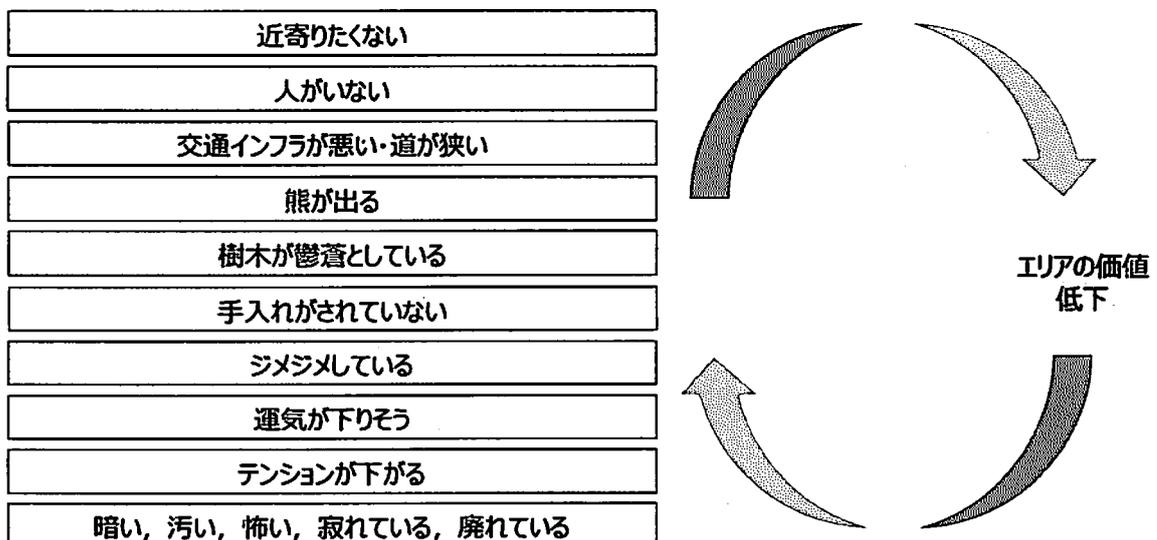
しかし、岩山エリアは、これまで多くの市民をはじめとした県民に親しまれてきましたが、近年は岩山エリアを取り巻く顧客ニーズの変化、施設・設備老朽化等に対する改善指導、少子高齢化・人口減少による市の財政状況の厳しい見込みから、維持管理費及び施設設備更新費の財源確保が出来ない等々の課題が山積し、岩山エリアの資産価値低下を招く原因となっています。

このような状況下において、岩山公園や動物公園に多額の費用を投資する従来の公共事業手法では対応することが困難であり、もし仮に投資できたとしてもこれまでと同じ運営体制では現状と同じ様な状況になることが容易に想定されます。

したがって、岩山エリアの再整備や資産活用のためには、利用者ニーズを把握し、経営観念も必要であることから、民間事業者との連携により経営ノウハウを取り入れて事業を進める必要があります。

イ 岩山エリアのイメージ

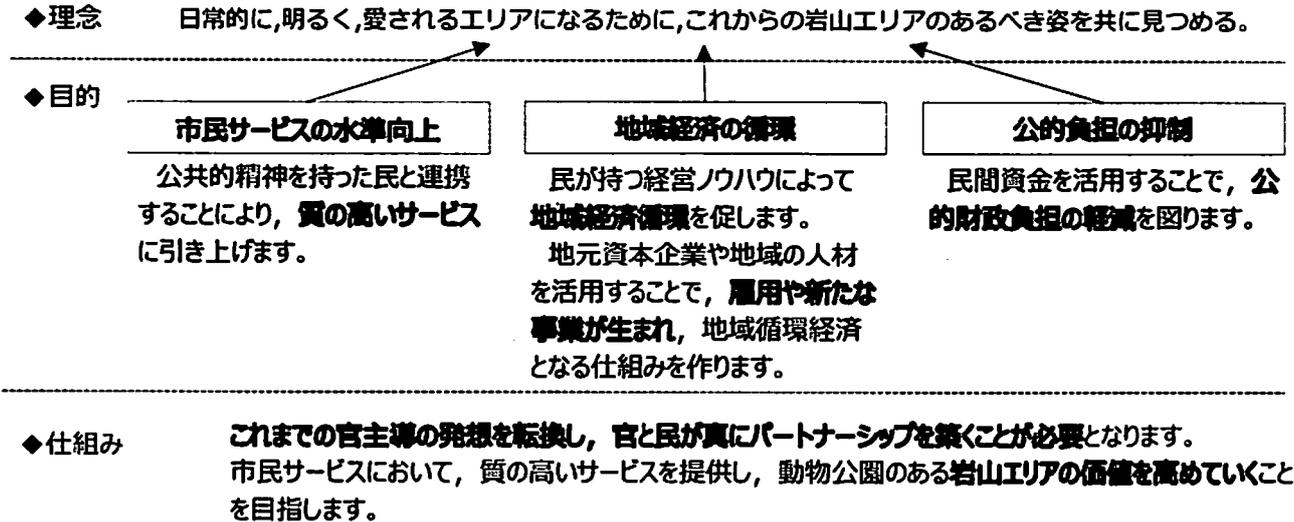
岩山エリアのイメージについて、公園活性化に係るワークショップなどでヒアリングしたところ、緑豊かなエリアや夜景が綺麗というポジティブイメージがある一方で、次のようなネガティブイメージを持つ人もいました。



ウ 価値を高めるために

岩山エリアにある公共空間の活用を中心として、民間施設も含めた活用も促しながら、財政負担を最小限に抑え、岩山エリア開発を民間主導による経済開発を行うことでネガティブイメージをポジティブイメージに転換します。
 岩山エリアの開発は、民間との連携により事業を進めます。

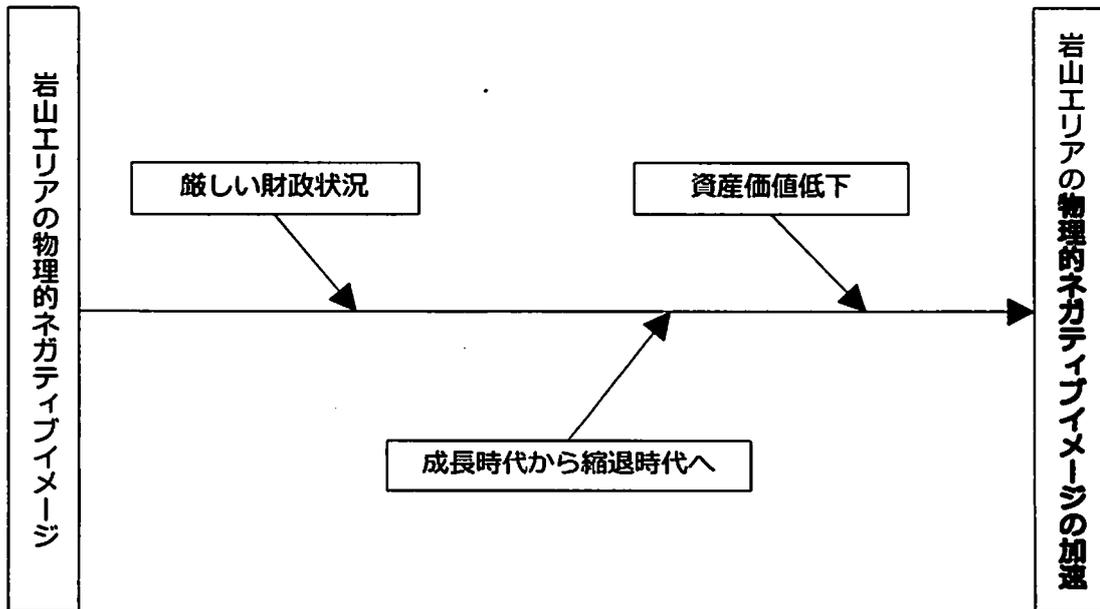
岩山エリアの価値を向上
 「日常使いのできるエリア」



エ 物理的ネガティブイメージを引き起こした原因

全ての根幹は、**市の厳しい財政状況**から、政策の集中と選択のなかで日常生活と距離感がある岩山エリアへの十分な維持管理費が確保できなかった結果、ネガティブイメージを想起させる結果となりました。

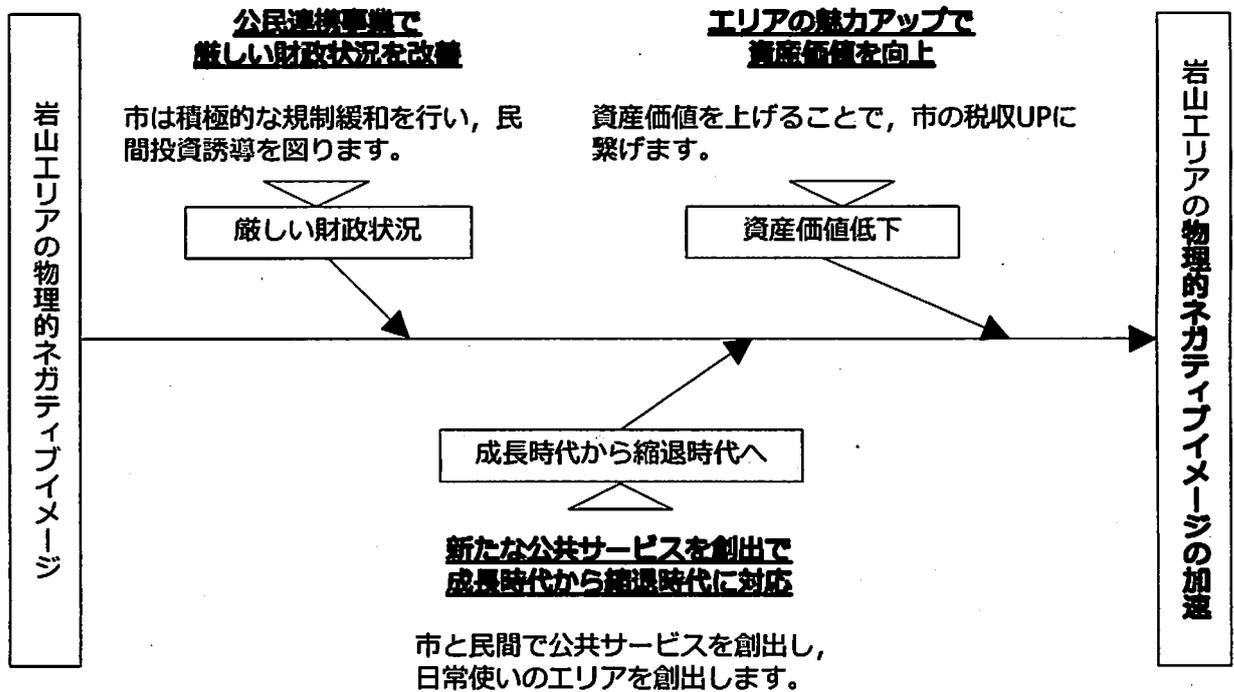
そのような状況下において、時代背景も**成長時代から縮退時代へ**転換し、市の財政状況も更なる厳しさを増して物理的ネガティブイメージが更に加速し、岩山エリアや岩山エリア近隣の**資産価値低下**を招いています。



オ 物理的ネガティブイメージを物理的ポジティブイメージに転換

物理的ネガティブイメージを引き起こしている原因を整理すると従来の公共事業の手法では、岩山エリアが持つイメージの転換は困難（**変わらない**）ですが、視点を変えると行政単独ではなく、行政と民間と連携することで好循環を生み出せる可能性はあると言えます。

事業手法を**公民連携事業に転換**することが成功の転機と捉え、民間主導による公民連携事業の積極的な取り組みが岩山エリアに好循環を生み出すと考えられることから、次のような台本を描くとともに、ゴールを「岩山エリアの物理的ポジティブイメージの創出」とします。



(2) 公民連携事業の方向性 ～公民連携事業によって何をを目指すのか～

ア 民が活躍するまちづくり事業の位置付け

岩山エリアにある豊富な自然や市と民が所有する施設を、市の施策に民間経営ノウハウを取り込むことで、エリア開発を行います。

◆盛岡市 総合計画 との関連性

◇基本目標 1 人がいきいきと暮らすまちづくり

岩山エリアを開発することで地域経済を活性化させ、雇用を創出し、若者の定住を図りつつ、公民連携事業に若い世代や子育て世代が抱える課題解決に資する事業に組み込んでいくことで、住みやすい環境を構築します。
また、岩山エリアが持つ経営資源を有効活用するなかで、新たなコミュニティを創出し、活気あるエリアにしています。

盛岡に定住する人口を保ち、活力ある社会を築いていくため、若い世代や子育て世代が住みたい、住み続けたいと思うとともに、豊富な経験を持つ高齢者が社会のさまざまな分野で活躍できるまちをつくります。

また、誰もが、心身ともに健やかで自分らしさを発揮しながら、人がつながり、互いに支え合う共生社会の中で、充実感を持っていきいきと安全に暮らすことのできるまちをつくります。

◇基本目標 2 盛岡の魅力があふれるまちづくり

岩山エリアに集積しているレジャー施設を、公民連携事業で新たな活用策による事業展開を行うことで、交流人口の増加やにぎわいを創出していく。また、豊かな自然環境をレジャー施設と連携した事業展開とすることで、事業効果を最大化させ、盛岡の新しい風景を創出します。

盛岡を行き交う交流人口を増やし、にぎわいを創出していくため、雄大な自然や美しい景観、城下町の歴史、芸術文化、スポーツ、温かい人情など、盛岡の魅力を守り育てるとともに、まちづくりにいかし、盛岡らしさが光る、魅力あふれるまちをつくります。

◇基本目標 3 人を育み未来につなぐまちづくり

岩山エリアの公民連携事業においては、将来のまちづくりを中心的に担っていく人材育成に着手し、持続可能なまちとする取組みを行っていきます。

長い歴史とともに築いてきた文化や環境などを次世代に引き継ぐため、未来の盛岡を支え、創り、つなぐことのできる人を育むまちをつくります。

また、環境への意識が高まる中、豊かな自然環境と快適な都市機能との調和が続く、持続可能なまちをつくります。

◇基本目標4 人が集い活力を生むまちづくり

公民連携事業は、人口減少及び少子高齢化に合った事業構築を行い、地域経済活性化につなげていきます。また、教育事業も織り込むことで優れた人材育成にも着手します。

人口減少、少子高齢化の進行とともに、地方の衰退が懸念されている中であっても、活力を生み出し、拠点都市としての役割を十分に果たしていくため、産業の振興や中心市街地の活性化を図るとともに、高次の都市機能の集積を推進し、求心力のあるまちをつくります。

また、国際化が進展する中で、世界に通用する優れた人材を育むとともに、多文化共生のまちづくりを進め、世界に開かれた、活力を生むまちをつくります。

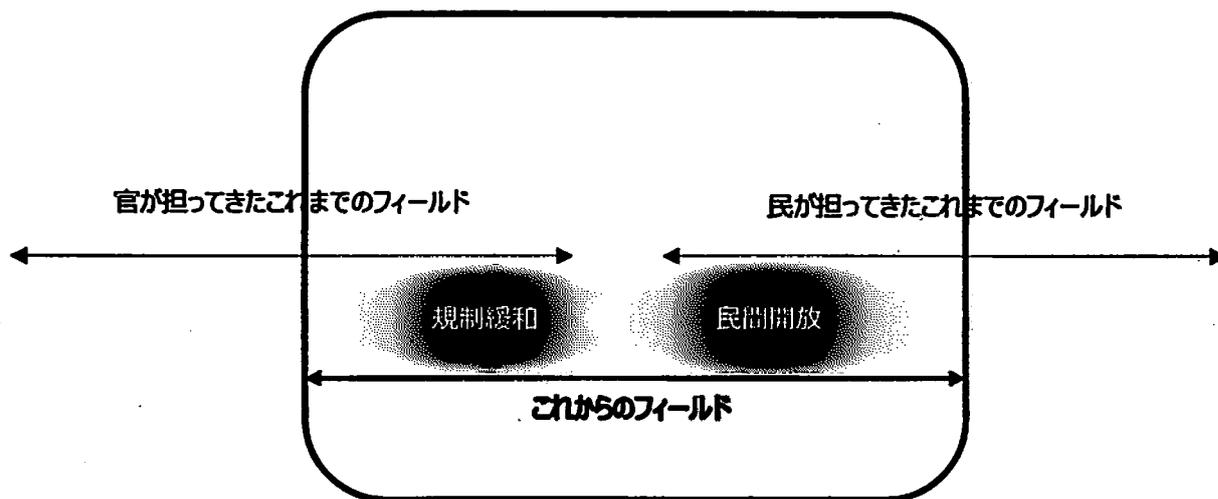
(3) 岩山エリア公民連携事業の視点

岩山エリア公民連携事業では、次の視点を持ち、岩山エリア開発の意義や効果を不断に高めていくことが重要です。

- 1 民間を主役に捉えているか？……**民が活躍する岩山エリア開発の前提**
- 2 官で物事を決め過ぎていないか？ ……**民の活動に制限**
- 3 官で積極的に規制緩和する気があるか？……**民から信頼を得られる官のパートナー**
- 4 事業資金リスクを負う民を守る気があるか？……**政治的リスクの回避**
- 5 民と官との連携ならではの質の高いサービスを提供できるか？……**付加価値の創造**
- 6 収支バランスが取れる事業であるか？……**経済合理性の確保**
- 7 地域内で経済循環できる事業であるか？……**地域内経済の循環**
- 8 官の新たな財政投資を必要としていないか？……**行財政負担の抑制**

(4) 公民連携事業の対象とその手法 ～具体的に何を？どのような方法で～

「市民サービスの水準向上」「地域経済の循環」「行財政負担の軽減」に資する事業



官と民がWin-Win

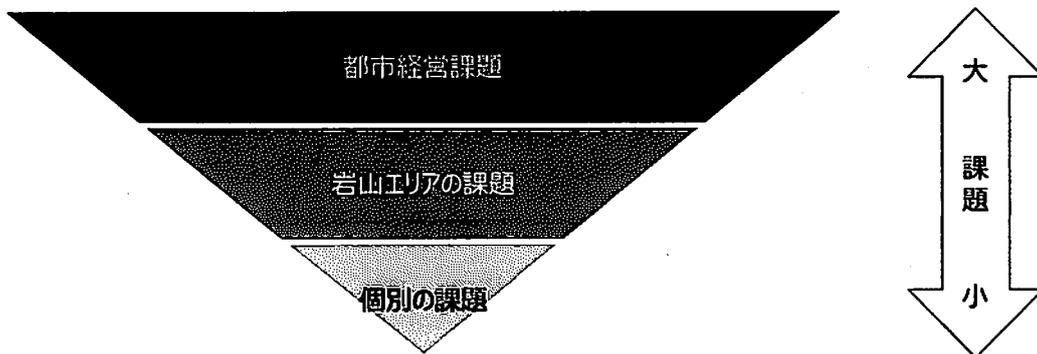
- * 民の市場範囲が拡大
- * 市民サービスの質的向上とコスト削減
- * 新事業や雇用創出による地域経済活性化

今後は、積極的に民間と連携することで新たなフィールドや手法が生まれ出されていく可能性があり、岩山エリアではその新たなフィールドや手法を生み出していくことに挑戦するエリアです。

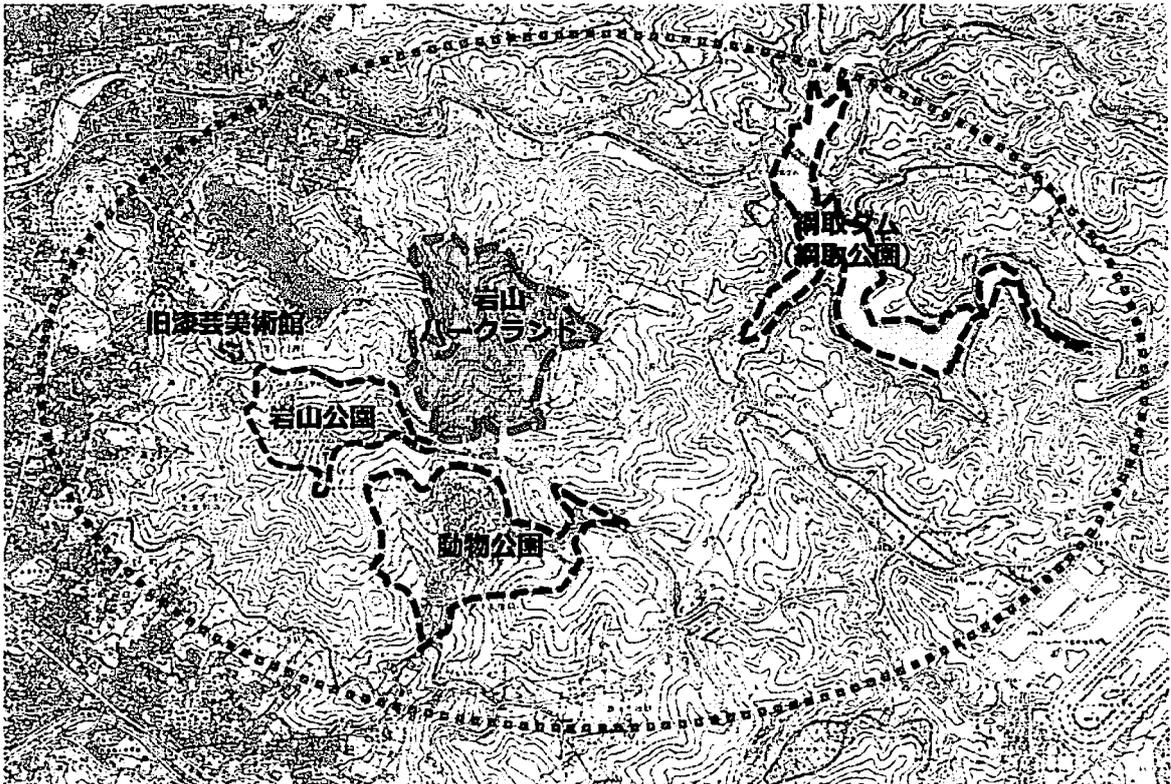
2 基本計画（開発理念等）

(1) 公民連携事業

公民連携事業とは、行政の厳しい財政状況下においてインフラ整備できない状況があるなか、民間の経営ノウハウを取り込んで、安価でデザイン性の良いインフラ整備を行なって良質な公共サービスを提供しようとするものです。具体的には、民間が運営する収益施設で得られた利益の一部を、**公共空間の維持管理費や行財政で解決できない課題解決の財源に充てる**ことを指します。公民連携事業の実施にあたっては、**官側にはプライベートマインド、民側にはパブリックマインド**を持つことが求められます。また、公民連携事業は、民間事業ではなく公共事業であることから、市が抱える都市経営課題の解決に資する事業構築を官民で連携して構築していきます。



(2) エリア



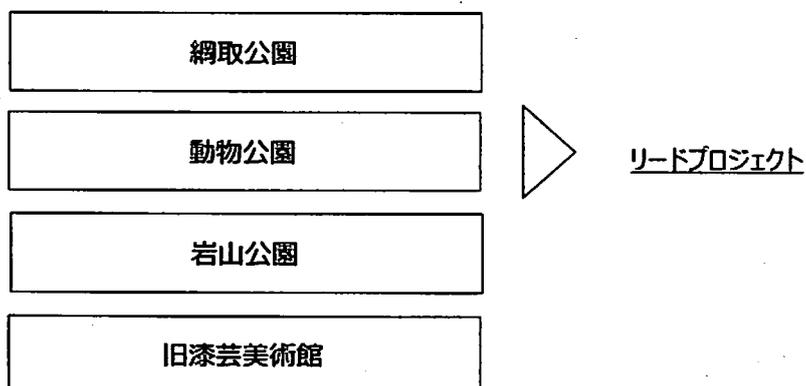
3 リードプロジェクト

岩山エリアの自然環境を活かした動物たちと人が共に織りなす物語



広大な岩山エリアのなかにある公的施設で、ある程度の集客力があり、かつ、老朽化が著しい盛岡市動物公園（以下「動物公園」という。）をリードプロジェクトとして選考します。

動物公園を再生することにより、集客力を高め、岩山エリアのネガティブイメージに一石を投じ、民間投資誘導を図れる事業が展開できた時点で、セカンドプロジェクトを選考し、次から次へと民間投資を誘発できるエリアへと変えていきます。



(1) 動物公園民間主導公民連携事業で目指す将来像

■ 動物飼育展示施設

動物による癒しや感動等を手軽に得られるような展示の実現、動物を近くで見られる、触れられる、野生の行動を体感できる施設と運営

■ 都市公園施設 (約37ha)

動物園としての利用に限らず、岩山の自然を活用した、様々な市民との協働による、多様な利用形態の実現

■ レクリエーション施設

安らぎや癒し、家族とのふれあいを満喫し、ゆったり過ごせる空間の創出。雨天でも利用できる施設と休憩場所、満足感の持てる飲食サービス等の提供

■ 学校教育、社会教育への支援

子供のみならず大人や高齢者も対象とした生涯教育

■ 自然環境教育

アウトドア志向に対応した自然体験による満足感の提供

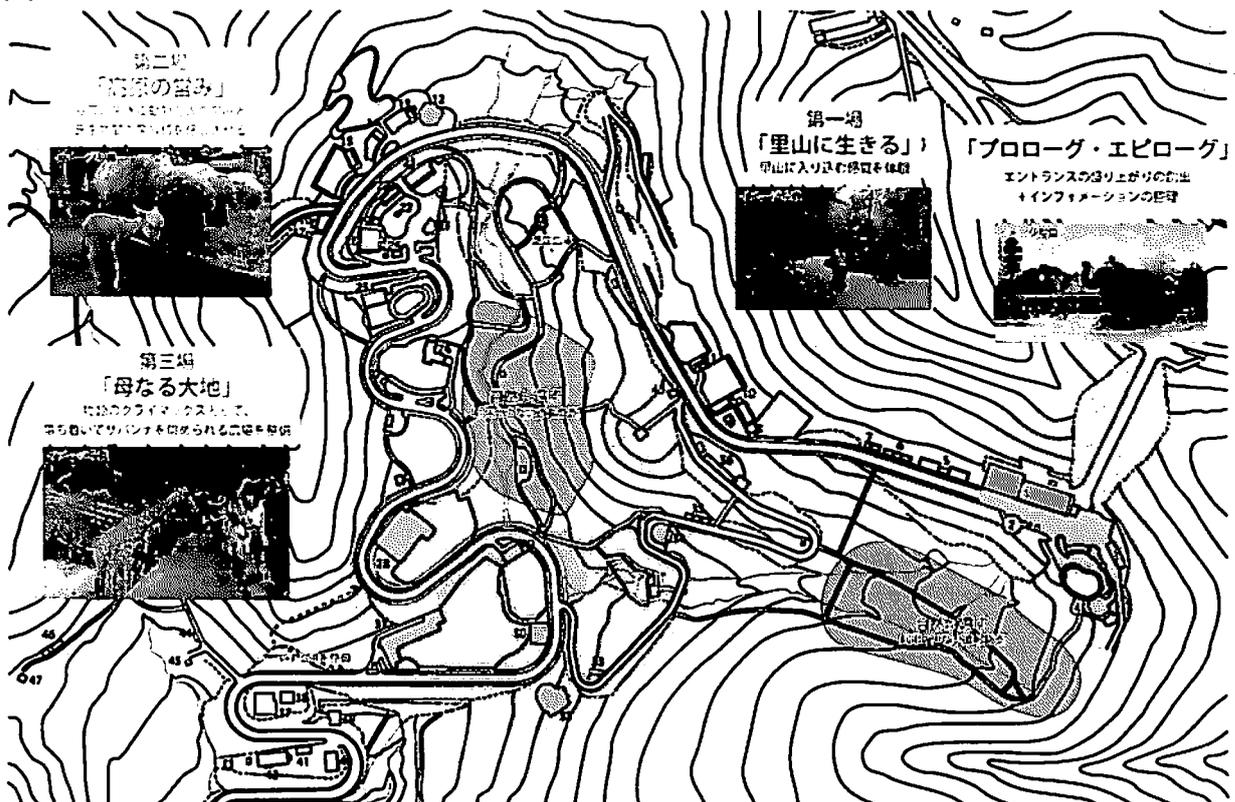
■ 動物全般に対応した総合的な施設

多くの方が集まって交流できるエリア

■ 来園者のための便益提供施設

新たな顧客の開拓と賑わい創出のため、積極的に民間収益施設を誘導

(2) 動物公園将来像 (ビジュアル)



(3) 動物公園再生事業に織り込む都市経営課題コンテンツ ～リードプロジェクトで解決を目指す都市経営課題～

都市経営課題の解決

動物公園は市民の財産であり、その財産を活用して行う動物公園再生事業は公的な意義を持つ事業である必要があります。市には障がい者自立に向けた所得の向上、待機児童対策、乳幼児の健康増進、都市型地場産業の創出、新しいライフスタイルへの対応など都市経営上解決すべき都市経営課題があります。市の財産を活用する事業である以上、これらの都市経営課題の解決に寄与する事業を構築します。



4 その他の公共事業プロジェクト

(1) 各施設の事業方針

公民連携事業とは、公共事業に経済合理性を組み込む公共事業です。

リードプロジェクトである動物公園再生事業は、経済合理性に基づく事業構築により、その魅力をアップさせ、市民に愛される動物公園にして運営経費にかかる行財政負担軽減を実現し、動物公園の施設存続を行うものです。

その他の公共施設（岩山公園や旧漆芸美術館等）の公共事業プロジェクトは、リードプロジェクトである動物公園再生事業を軌道に乗せることにより、岩山エリアの価値を上げ、民間による投資誘導を図り、岩山エリアにある既存施設についても、公民連携による経済合理性に基づく事業の構築を検討し、事業展開していきます。

ア 岩山公園

2017年の都市公園法改正により、様々なアイデアに富んだ民間収益施設の設置や利活用が可能となったことから、岩山公園にある豊かな自然や、市街地を一望できる眺望や夜景を活かした事業展開が期待できることから、リードプロジェクトである動物公園再生事業との相乗効果を考慮し、(株)盛岡観光開発公社などの民間と事業開発していきます。

岩山公園は、貴重な野草や鳥類が生息しており、それら豊かな自然を活かしつつ、旧キャンプ場や展望レストランのリノベーションなどと共に、散策トレッキングや探鳥会、星空観察など、集客と収益を兼ねた各種イベントの開催等が可能と判断できます。

イ 旧漆芸美術館

旧漆芸美術館は、新たな活用を行う際には大規模な耐震補強と建築基準法に適合させる必要があります。その費用は、民間資金ではなく公費で行う必要性があるため、公共投資と資金回収を想定しながら事業性を検証していきます。また、旧漆芸美術館は市街化調整区域内にある建築物であることから、新たな活用に際しては用途が限定されます。

しかし、岩山の自然にマッチした表情を持つ建物内には、展示スペースのあるエントランスや南部曲り家等の貴重な盛岡らしい建造物もあり、それらを活かした美術館や、南部鉄器資料館、物販やカフェの併設、あるいは岩山公園への入り口となるネイチャーセンター等としての活用が考えられることから、岩山エリアの活性化に繋がるような活用方法を広く民間から募集し、必要となる耐震補強や老朽化に伴う改修等は市が担い、収益の一部を市に還元するなど投資の回収も考慮した有効活用を図っていきます。

ウ 網取ダム（網取公園）

2017年の都市公園法改正により、様々なアイデアに富んだ民間収益施設の設置や利活用が可能となったことから、網取ダム周辺の豊富な緑や水辺を活かした事業として、森の中を巡るトレッキング、自然に囲まれ

た中でキャンプ、釣りやアウトドアスポーツなど、より本格的なアウトドアアクティビティの展開が考えられます。更に、動物公園や岩山公園等の他の施設と連携することでより広範囲なアウトドアアクティビティ事業の展開が可能と判断できます。

また、豊かな自然環境の象徴であるイヌワシの生息地であることから、盛岡市を代表する自然を広く認識するエリアとしての活用について、民間とともに検討し、事業開発していきます。

エ 動物愛護センター

動物愛護センターは、岩手県との共同設置を検討しているところであり、公民連携事業による整備を検討していきます。また、愛護センター設置に伴う岩手県鳥獣保護センターの移設についても、公民連携事業による整備が可能か検討していきます。

オ 岩山パークランド及び盛岡競馬場等

岩山パークランドと盛岡競馬場については運営する団体と連携してエリアの価値を高めていく民間投資を誘導していきます。

(2) タイムスケジュール

